

2018年度PMからのメッセージ

氏名・所属: 稲見 昌彦(東京大学 先端科学技術研究センター 教授)



略歴:

- 平成11年 東京大学 大学院工学系研究科 博士課程修了、博士(工学)
- 平成11年 東京大学 国際・産学共同研究センター リサーチ・アソシエイト
- 平成13年 東京大学 大学院情報理工学系研究科 助手
- 平成15年 電気通信大学 電気通信学部 講師
- 平成17年 電気通信大学 電気通信学部 助教授
- 平成17年 マサチューセッツ工科大学 コンピュータ科学・人工知能研究所 客員科学者(兼任)
- 平成18年 電気通信大学 電気通信学部 教授
- 平成20年 慶應義塾大学 大学院メディアデザイン研究科 教授
- 平成26年 超人スポーツ協会 共同代表(兼任)
- 平成27年 東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授
- 平成27年 慶應義塾大学 大学院メディアデザイン研究科 客員教授(兼任)
- 平成28年 東京大学 先端科学技術研究センター 身体情報学分野 教授
- 平成29年 科学技術振興機構 ERATO 稲見自在化身体プロジェクト 研究総括(兼任)

専門分野:

人間拡張工学
バーチャルリアリティ
拡張現実感
ウェアラブル技術
ロボット工学

メッセージ:

HackとCookはよく似ています。全く同じ素材を使っても、確かな腕で素人には真似できない逸品に仕上げられる。独善的な腕自慢でなく、対象とするお客さんの顔を見ながら最適を目指す。歴史の流れを踏まえつつも独創的なものをつくる。個人の興味や地域の課題や特色を、世界での価値につなげる。

情報技術で世界が直面する社会の難問の解決にチャレンジすることも大切ですが、まずはご当地グルメを開発するぐらいの気持ちで、身近な疑問、課題、目標を複数設定し、それらを一気に解いてみせること、すでに知られている手法であっても、全く違った分野に適用して鮮やかに解決することも意味のあるHackです。

「社会や人類全体の役に立つ」より、まずは「自分と特定の誰かが楽しくなる」「作りたくて居ても立ってもいられない」ような提案を期待します。

また、食、スポーツ、温泉、水系、冠婚葬祭、廃棄物やここに例示されていないコンピュータにとって未踏な領域へのチャレンジも歓迎します。

採択後、その提案を世界と未来につなぐための作戦を共に考えましょう。

審査基準(下記基準のうち2つ以上含むこと):

1. 複数の疑問、課題、目標を一気に解決できる手法の提案
2. 自分と特定の誰かが楽しくなるような提案
3. 居ても立ってもいられないほど実現したい提案
4. 情報技術のイメージや我々の世界の見え方を変える提案
5. PMと議論の上、いつか世界と未来に繋がることを目指したい方